

## vii. 宝島での取り組み

宝島実習生 大友秀一

### はじめに

私は、小学校の教師を目指している。私のイメージする教師の力量とは、様々な活動を通して多角的な視点で子どもの個性を発見できる力、である。

様々な観点で子どもをみるには、子どもをみる目を磨く必要がある。その点トカラの小学校では、(児童数の関係上)本来教育が基盤とするべき教師と子どもの一対一の関係を大切に、個々の子どもとのふれあいを通して、教育を実践してきたのではないかとイメージしている。私は一人の子どもと密な関係を築くトカラの小学校現場に、子どもを理解する大きなヒントがあると考えた。

子どもとの関係はもちろん、その保護者との関係、地域との関係を強く結ばなければ、トカラでの教育は成り立たない。社会の縮図ともいえる離島という限られた人間関係のコミュニティにおいてこそ、現在の教育課題である地域・家庭との結びつきについて深く学ばせていただけないのではないかと考えた。宝島の教育史をみると、明治7年(1874)という早い時期から学校を建て、子弟の教育に取り組んだこと、学校が倒壊した際に各家を授業場所として開放したことなどが記されていた。すなわち、宝島の学力は、島民の内なる力といえ、歴史的に「学校・家庭・地域が一体となった教育活動」(鹿児島県十島村ホームページより)が行われている宝島小中学校に大きな魅力を感じた。

したがって、今回の実地研修を通して、宝島の子どもたち、また宝島に赴任されておられる先生方、地域の方とふれあっていく中で、一人一人の子どもをみる目と、地域・家庭との結びつきについて学ぶことが、大きな目的である。

目的のもう一つは、複式学級における教師の取り組みを学ばせていただくことにあった。学校生活における授業の時間は、教師が子どもとふれあう中で最も長く接する場面である。子どもの問題行動が多様化し、生徒指導の重要性が問われているが、教師の個性や能力を存分に発揮する場面は、やはり授業にあると思われる。私は授業と学級経営の結びつきは大きいと考えており、授業を形成する力を優先的に磨くことを自己課題としている。

一人の教師が、複数の学年の子どもをみるという授業は、私は今まで児童・生徒の立場からも体験したことがない。また、複式学級での授業は子どもに自習の時間を与える場面が多く、一つ間違えればただの詰め込み型の授業になってしまう可能性があると思われる。そのような授業形態の中で、教師がいかに自分のオリジナリティを出し、子どもの個性を見極めて、豊かな学習経験の場を子どもに提供するかは、教師の力量にかかっているといえよう。したがって、複式学級での授業実践を通して、授業を形成する力をつけたいという思いを持って実習に臨んだ。

## 1. 宝島について

### (1) 宝島の自然とくらし

宝島は、周囲 13.77km、面積 7.14 km<sup>2</sup>、人口 128 人(2006.7 末)、最高点 292m(イマキラ岳)のトカラ列島の有人島では南端の島で、隆起したサンゴ礁でできたハート形をした島である。島内には、幅 10m、奥行 500m という規模の大きな鍾乳洞がみられ、観音像が祭られている。

ステューブンスンの小説「宝島」(1883)のモデルとなった島でもある。島内には、海賊キャプテンキッドが財宝を隠したと伝えられている鍾乳洞もある。国内外から多くの探検家や賞金稼ぎが訪れたともいわれている。私が訪れる 2 週間ほど前に「24 時間テレビ」の企画として、宝探しを試みたが財宝は発見できなかったようである。

また、文政 7 年(1824)には、実際にイギリス船の侵略行為(食料として牛を奪うため)があり、翌年徳川幕府が発布した「異国船打払令」の一因ともなった場所である。

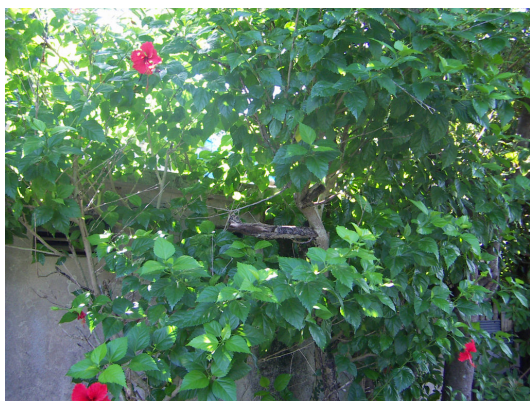
集落は、島の北方、前籠(まえごもり)港に面した山麓に分布する。湧水は集落内にあり、集落成立の要を成している。寛延 4 年(1751)～宝暦 13 年(1763)の統計では、小宝島を含めて総人口が 286 人であり、当時の十島村において最多の人口であった。また他島と違い、人口規模が大きいこともあって、通婚圏も島内にとどまり他島との関わりは少なかったという。しかし、現在では山海留学生や移住者が多く見られることから、外からの人間を拒まない体制があるように思える。



図 1. 宝島の地図

出典：十島村役場ウェブページ

<http://www1.tokara.jp/contents/profile/takara.html>



島内に咲くハイビスカス



大籠海水浴場

一方では、第1次産業である農業や林業、水産業のみで宝島で暮らしていくのは難しい現実があり、様々な副業をされている方が多い。また、島の食料は週2便の村営船に大きく影響され、各家庭には食料を保存するための大型の冷凍庫がある。

島には、トカラハブや、アカショービン、夜光貝といった島独特の生き物や、ソテツやバナナ、ハイビスカスなどの熱帯、亜熱帯の植物がみられる。さらに、海岸線の海は澄み渡っており、晴れた空のような薄い青色である。島の北部にある大籠（おおごもり）海水浴場はシャワーの設備が整い、海水浴に最適である。また島の人たちが薦めてくれたのは島の南西部にある大間（おおま）港であり、シュノーケリングをすると色とりどりの魚たちが出迎えてくれる。澄み渡った海の青さとサンゴ礁の白さとが絶妙のコントラストを見せる南国の雰囲気を持つ島である。

## （2）宝島小中学校の教育体制

学校の教育目標は、「主体性・創造性に富み、心やさしく、たくましい児童生徒を育成する」である。そして、「こどもが主役」の学校づくりを目指し、学校・家庭・地域が一体となった教育活動を推進している。また、小中合同の異年齢活動や未就学児の子どもたち、高齢者の方々とのふれあい活動を大事にしており、思いやりや優しさ、共に助け合う心が育っている。校舎は二階建てで、校舎とは別棟にランチルームといわれる給食を食べる部屋があり、教職員も含めて全員で食事を取る「食育」が実施されている。また、島に歯医者が常駐していないことから虫歯予防を徹底しており、給食を食べ終わった後には全体で歯磨きをするという指導が徹底されていた。

在籍数は、前年度は14名であり、今年度は17名（小9名、中8名）である。今年度の十島村の小中学校では、最多の人数が在籍している。小学校における児童の構成は、小一が2名、小四が1名、小五が1名、小六が5名である。中学校は中一が2名、中二が1名、中三が5名である。全17名中、山海留学生は7名、教員子弟は2名であり、小五・六は複式学級、小四は単式学級である。中学校では全て学年ごとの学級編成となっている。山海留学生の人数が多いのも特徴であるが、今年度の卒業者が多く、来年度の在籍数の変動が大きいと思われる。



宝島小中学校の校門



学校全体で行う運動会の練習

## 2. オリジナル授業

### (1) 学習指導案

#### 第5・6学年 総合的な学習の時間 指導案

指導者： 大 友 秀 一  
 学年・学級： 第5・6学年の複式学級  
 場 所： 宝島小中学校 第5・6学年教室  
 日 時： 平成18年9月14日(木) 第6校時

#### 1. 題材名 「電子地図を楽しもう！」

#### 2. 題材設定の理由

##### (1) 題材について

本題材は、学習指導要領「総則 第1章第3の3 総合的な学習の時間の学習活動」における「地域や学校の特色に応じた課題」を基準に設定した。さらに、第5, 6学年ともに社会科の目標(3)においては、地図の効果的な活用に関する内容が記述されている。そこで、本題材「電子地図を楽しもう」では、地図に関する社会科的要素と、PC操作に関する情報教育の要素を組み合わせ、効果的に地域の特色を学ぶことが出来る電子地図を用いた地図に関する学習として設定した。

電子地図は、GIS(地理情報システム)とも呼ばれ、読図能力に欠かせない要素である等高線や縮尺についての理解を助長する。また、児童の住む宝島は、大籠(おおごもり)海水浴場やイギリス坂、鍾乳洞など様々なみどころあふれる島である。そこで、電子地図(GIS)を用いて児童の読図能力を高めた上で、観光マップの作成を行いホームページ上に公開する。そして、これらの活動を通して地域の特性についての理解を深めたい。

##### (2) 児童観

地図の学習は、これまで第3学年及び第4学年の社会科における地域学習で主に行われている。しかし、電子地図(GIS)を扱うには、PC操作の基礎的なスキルが必要となるが、これまで児童が用いてきた地図は紙地図が多いと考えられる。したがって、地図に関しては平面的な理解がされてきたと考えられる。また児童は、1学期間にフィールドワークを実施し、宝島の観光名所となる写真を撮影したり、説明文を作成してきている。そして児童には、宝島の魅力を多くの人に知らせたい気持ちがあると思われる。そこで、地図を立体的に表すことができる電子地図(GIS)を用いて、等高線や縮尺の正しい理解を促すとともに、観光マップ作成を試み、より実践的に地図を活用できる子どもを育てたい。

##### (3) 指導観

本授業での児童数は、第5学年の児童1名および第6学年の児童5名の少人数での複式学級である。そこで、少人数であることをいかし、一人一人に応じたきめ細かな指導を通して、基礎・基本の確実な定着を図る。さらに、2つの学年の児童生徒で構成されていることから、上学年と下学年の関わりを通して、学年を越えて学びあう態度を育てるといった少人数および複式学級での長所をいかした指導を行いたい。

### 3. 題材の目標

#### 〔関心・意欲・態度〕

地図を立体的に表すことができる電子地図（GIS）の特性をいかし、児童に地図に対しての興味を持たせ、自分たちが住んでいる身近な地域に対する学習の意欲を高める。さらに、今後の児童の地域に対する課題意識が定着するように、電子地図（GIS）により正確に地図の要素を理解し、学習に取り組ませる態度を養うことを目標とする。

#### 〔思考・判断〕

自分の思考に合わせて地図を連動させ、地図を身近に感じることができる電子地図（GIS）により、児童の生活経験が地図を通して無理なく広げられるようにする。また、島の様子や、それを支える人々との出会い、驚きや新たな発見をすることによって、自分の住む島について調べたり働きかけたりする課題を自ら発見することができる。

#### 〔観察・資料活用の技能・表現〕

これまでは、模造紙において表現していた地図を、電子地図（GIS）を用いて表現することにより、児童の作図能力による差がなくなることから、全ての児童が地図の作成に関われるようにする。また、何度もPC操作を試行錯誤して地図の作図をすることにより、コンピュータ・リテラシーと読図技能の向上を図る。

#### 〔知識・理解〕

自分たちの住んでいる地域と電子地図（GIS）との関わりを通して、地図への関心を引き出すと同時に、地図の要素となる縮尺と等高線などについての理解や、断面図の意味を電子地図（GIS）により体験的に理解させる。また、地図を作成することにより、地域の特色を把握させることを目標とする。

### 4. 単元の流れ

小単元	学習活動	時数
第1時 電子地図を見てみよう！	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 電子地図（GIS）を用いて、上空からの宝島をみる。</li> <li>○ 飛んでいる方向や場所について話し合い、地図の見方や方向を考える。</li> </ul>	1
第2時 等高線を知ろう（本時）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 電子地図（GIS）やウェブ教材を用いて、等高線や断面図の意味を知る。</li> <li>○ 粘土を用いて、宝島の模型を作る。</li> <li>○ PCを操作して、等高線と断面図の概念をつかむ。</li> </ul>	1
第3時 「たからじマップ」 をつくろう！	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ホームページ作成ソフト及び電子地図（GIS）を用いて、宝島の観光案内マップを作成する。</li> <li>○ これまでデジタルカメラで撮影した写真の位置確認。</li> <li>○ 学校のホームページに公開する。</li> </ul> <p><a href="http://www12.synapse.ne.jp/takara/takamap/takaraji.html">http://www12.synapse.ne.jp/takara/takamap/takaraji.html</a></p>	3

## 5. 本時について（第2時）

## （1）目標

- ・電子地図（GIS）やウェブ教材を提示することにより，等高線や断面図について興味・関心を持って学習を進めることができる．[興味・関心]
- ・電子地図（GIS）を実際に操作することで地図についての基礎知識を深め，読図能力を高めることができる．[知識・理解，技能]

## （2）展開

時間	学習活動	予想される子どもの姿	教師の働きかけ 教材・資料および留意点
導入 10分	1. イマキラ岳に登った経験を出し合う． ○「イマキラ岳の高さはどれくらいかな．」 ○「イマキラ岳の高さは，どうやって決めているのかな．」 ○「高さは地図に，どのように表現されているかな．」	○「イマキラ岳に登るのはたいへんだったなあ．」 ○実際の標高についてはわからない子ども． ○高さの決め方や地図表現について興味を持つ子ども．	○イマキラ岳に登ったときに，気づいたいろいろなことを話し合う． ○パワーポイントでの教材を用いて，高さについて興味を持たせる．
等高線について学ぼう！			
展開 25分	2. 粘土で宝島の模型を作ってみよう． ○「宝島を水槽の中に入れて，水を流してみよう．」 3. 海の高さが 5m 高くなったら，どうなるかを考える．	○協力しながら粘土で宝島をつくる子ども． ○宝島の地形がイメージできない子ども． ○自分たちの住んでいる場所が安全であるか考えられる子ども． ○電子地図（GIS）と粘土によりイメージができた子ども．	○粘土と水槽を用いる． ○パワーポイントおよび「カシ米尔 3D（GIS）」，ウェブ教材を用いる．
まとめ 10分	4. 電子地図（GIS）を用いた山登りの操作説明． 5. 等高線についての復習を行い，まとめをワークシートに書く． 6. 次回の予告	○自分の家の高さがどれくらいであるか興味を持つ子ども．	○「カシ米尔 3D（GIS）」を用いて，断面図を作成する． ○ワークシートを用いる．



## (2) 実践報告

第6校時の授業であり、運動会練習の疲れがピークに達していたことも重なって、子どもたちの集中力が低下しており、授業に集中させることが困難な状況にあった。しかし、粘土を投入した水槽に水を注入する時や、電子地図（GIS）を用いて山登りをさせている時、疲れた顔を見せていた子どもたちの表情がイキイキしていたこと、等高線や断面図について理解できたという感想をもらったことは大きな成果であった。

本時の授業を通して、IT 教材（電子地図（GIS）やウェブ教材）と粘土での作業を組み合わせることで、子どもたちの等高線や断面図の概念がより明確になったと思われる。IT 教材は、視覚的に伝えることができ、比較的容易に内容を把握させる事ができるが、子どもたちの記憶に残りづらい。しかし、そこに作業を入れることで、経験的に内容を把握し記憶に残すことができると考えられる。IT 教材と体験的な活動を組み合わせる必要性を改めて感じた。

授業の反省としては、粘土を使って宝島の形をつくりそれを水槽の中に入れ、徐々に水を足して、等高線のしるしをつけるという段取りが非常に悪かった。担任の松寄先生とのT.T形式でなければ、授業は大幅に遅れ授業として成立しなかったと思われる。実際に授業をする際には、見通しを持った計画が必要であり、さらに子どもの実態を把握し、子どもたちの意見をいかす手立てを考える重要性を再認識した。



授業風景 1（導入）



授業風景 2（粘土での宝島の模型作り）



授業風景 3（水槽への水の注入）



授業風景 4（電子地図（GIS）を用いた測量をする児童）

今日の授業で気が付いたことや授業の感想を書いてください。

等高線と断面図がどういうものがわかってよかったです。  
実際に、さいにみ三人で宝島をねんとてつくって水をな  
たり、パソコンをつかって山を歩かせたりしたので楽しかったです。

資料 1. 児童の感想 1

今日の授業で気が付いたことや授業の感想を書いてください。

パソコンを見て実際にねんとて宝島を  
つって水をながすことができて楽しかった。  
等高線や断面図が楽しく理解することが  
できた。

資料 2. 児童の感想 2

【参考資料・URL】

鈴木正了（2004）：『小学校中学年の地域学習における GIS を活用した教材の開発』，兵庫教育大学大学院 2004 年度修士論文  
帝国書院ウェブページ：[http://www.teikokushoin.co.jp/01\\_geo/contour.html](http://www.teikokushoin.co.jp/01_geo/contour.html)

【使用教材・教具】

○ノート PC ○Microsoft 社 PowerPoint ○「カシミール 3D」 ○「等高線ってなあに」（帝国書院ウェブページ）  
○プロジェクター



### 3. 研修全体を通して

#### (1) 研修内容

宝島小中学校において、主に小学校を中心に研修させていただいた。小学校社会科など、計5時間の授業実践を行った。オリジナル授業は、小学生対象の総合的な学習の時間において、「電子地図を見よう」、「等高線を知ろう」、「たからじマップをつくろう!」という単元構成で行った。

授業以外にも落花生の収穫や敬老会など様々な学校行事、地域の行事に参加させていただいた。

特に、学校が子ども会を運営し、子どもたちや教師が敬老会の準備などを行い、村の行事に積極的に参加している姿が印象的であった。落花生の収穫においては、収穫の喜びや達成感を味わわせるとともに、地域の方とのふれあいを大事にしていた。落花生の収穫が学校行事として実施可能なのは、地域の援助があるからといえる。したがって、学校と地域との助け合いの体制が自然にとられており、学校と地域の連携はこのような活動の積み重ねにより強まっていくことを強く感じた。

また、子どもたちが自主的に行っているあいさつ運動、運動会の応援練習などにも参加させていただいた。宝島の子どもたちが持つ自主性の素晴らしさにふれることができたことは、教師を目指している私にとって大きな意義があった。



図2. 子どもたちと作った「たからじマップ」

出典：宝島小中学校ウェブサイト

<http://www12.synapse.ne.jp/takara/takamap/takara11.html>



落花生の収穫



敬老会

## (2) 研修を終えて



上空から見た宝島

出典：十島村役場ウェブページ

私が宝島小・中学校に来校した際に、最初に衝撃を受けたのは子どもたちの純粋さである。夜遅くまで運動会に一生懸命取り組む姿や自主的にあいさつ運動をする姿に驚かされ、優しい笑顔や心に癒された。くったくのない笑顔でその日の出来事を楽しそうに話してくれる姿に、私は心がきれいに洗われるような感じになった。

このような子どもたちが育つ宝島の教育力に研修初日から自然と興味を持った。

まず気が付いたのは、宝島では子どもたちどうしが高めあう関わりあい自然と定着していたことである。上級生は下級生の手本として、下級生の面倒をみている。上級生は行事において、子どもたちを統率する態度や行動がきちんと身についており、下級生から尊敬されている。自然と先輩を敬うタテの関係が身についていることがよく感じ取れた。また宝島では、この関係が密接であるため、子どもたちどうしのいじめが見受けられない。弱いものを受け入れる体制が、先輩からきちんと受け継がれているからであろう。

次に、宝島の自然環境があげられる。宝島の海は、澄み渡った青色で、少し潜れば熱帯魚に出会うことができる。緑も豊かで、地域の特徴があふれる動植物がたくさんみられた。このような環境で育てば、心が穏やかになると思われる。しかし、一方では厳しい住環境でもある。宝島の食糧事情は、週2便の船に大きく左右される。簡単には、食料が手に入らない。

「生きる」ということに必然的に直面する。みんなで協力しなければ生きていけないのである。「みんなで生きていくこと」、その大切さに気づくことは、子どもたちをまっすぐにする。

このような環境の中で、子どもたちは自然と「大人」の存在の大きさに気づいていく。大人や親を尊敬すること、年長者を敬う心というのは現在の子どものに失われつつある。地域社会についての認識は、大人を深く尊敬することで深められていくと考えられる。そして、子どもたちは地域の中に生きている自分を発見し、人との関わりについて学んでいることがわかった。初めて学校を訪問した際、「おはようございます」と元気にあいさつをしてくれた子どもに、私は救われた。宝島での生活経験が、自主的にあいさつができる子どもたちへと大きく成長させているのだと実感した。

## おわりに

今回の実地研修では、「一人一人の子どもをみる目」と、「学校・地域・家庭との結びつき」、「複式学級における教師の取り組み」について感じ取ることを自己課題として取り組んだ。

実際に研修に臨んでみて、私が知っている教育との相違点だけでなく、宝島ならではの教育活動を感じる事ができた。その一方、教育の本質ともいえる共通点についても大いに学ばせていただいた。それは、教師の熱意である。実習初日に「輝きの里教育プラン」という宝島小中学校の教育課程を頂いた。

154 ページにも及ぶ枚数、一つ一つ丁寧に考えられている教育課程の内容に驚愕した。そこで、「一人一人の子どもをみる目」というものを大いに学ばせていただいた。

「学校・地域・家庭との結びつき」について実際に地域社会にふれて感じ取り、学んだことは今回の研修における大きな成果の一つといえる。地域の行事には、子どもたちはもちろん教職員も全員参加し、学校全体で地域との関係性を築く。地域との密接な関係作りができれば、島での教育は成り立たないといっても過言ではないと思われる。

私は、ごく小規模の学校では、校務分掌に追われ、教育課程や授業にあまり時間が割けないのではないかという偏見を持っていた。しかし、宝島小中学校の様々な先生方の授業を見学させていく中で、その考えの誤りに気づいた。少人数だからこそ、地域格差による教育の不平等をなくすため、教師の力で精一杯尽力する熱意が、教育課程である「輝きの里教育プラン」や授業からひしひしと伝わった。そして「複式学級における教師の取り組み」の基本は、小手先の技術ではなく、一人一人の子どもと向き合う姿勢が根本にあることを学ばせて

いただいた。このような教師たちの熱意があるからこそ、子どもたちがまっすぐに育つのである。

最後に、宝島小中学校での実地研修は、今後の私の人生の大きな糧となった。このような貴重な体験を快く引き受けてくださった平峯校長先生、末永教頭先生をはじめとする教員の皆様、特に温かく丁寧なご指導をくださった指導教諭の松寄先生に心より厚くお礼申し上げたい。



資料3. 宝島小中学校の教育課程



宝島小中学校から望む海の風景